

神戸学院大学 第2次中期行動計画 中期計画(第3層) 2020年度達成度評価表 分野:大学運営

中期目標		評価	理由
学長のリーダーシップの下で、効率的で機動的な大学運営を行います。			
中期計画	1 内部質保証システムの機能的有効性の促進	C	第1次中期行動計画(2013-2017)より継続している自己点検・評価の体制は、各学部・部署に十分浸透している。新型コロナウイルス感染拡大防止対策(授業形態等の変更等)を優先するため、自己点検評価小委員会の運用についても、開催頻度の緩和の特例措置を行なっているが、コロナ禍であっても、PDCAサイクルを維持したことは評価できる。内部質保証の基本方針と手続きの策定や、全学内部質保証推進組織の整備等については、対応が遅れていることから次年度以降の取り組みに期待する。
	2 効率的な組織運営	C	各学部・研究科において、教員組織の編制方針に基づき、昇格・採用等が実施できている。研究科の運営について、大学院再編ワーキンググループを設置し、組織全体で検討できたことは評価に値する。また、学校法人においては事業会社を、大学においては出版会を設立したが、設立後も人員配置等、継続的な見直しが必要となるため、今後も継続して取り組むことが望まれる。
	3 効率的な財政運営	B	概ね目標どおりである。教育研究振興基金について継続的に基金活動を実行し、周知を行っていることや、神戸市のふるさと納税の仕組みを活用した「KOBÉ学生サポート 市内大学等応援助成金」制度にも参画し、基金活動を推進していることは評価できる。
	4 戦略的広報活動の推進	B	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面によるイベントが中止となり広報活動に影響があったものの、WEBオープンキャンパスの開催や、コロナ禍でも学びを止めない取り組みの発信を行ったこと、また、本学のブランド力確立のための「ブランド力醸成ワーキンググループ」にて、ブランド力強化等について継続して議論を行い、活動を展開していることは評価できる。学内外に向けた情報発信やブランド力向上のための取り組みは、一定の成果を上げたといえる。入学・高大接続センターにおいて、新入生対象オンライン座談会を開催する取り組みが、学内を盛り上げる新たな仕組みづくりに繋がっていることも評価できる。
	5 SDの推進	C	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、意見交換やグループワーク等の対面研修は、例年通りの実施ができなかったものの、2019度実施したSDの実施効果の検証結果を2020年度SD実施計画に反映し、開催方法を座学に変更するなどして、実施したことは一定の評価ができる。次年度以降の取り組みにも期待する。
	6 男女共同参画の推進	B	男女共同参画推進室を中心としてフォーラム、学長カフェ等の開催、リーフレット、ニュースレターの発行、OGや女性教職員の活躍を顕彰する「森わか賞」の表彰、介護・保育事業等、全学的な男女共同参画への取り組みをコロナ禍においても継続的に実行していることは評価できる。また、各学部・研究科・部署において、女性教職員比率、上位職における女性比率の向上に向けて、共通認識を持って取り組んでいることは評価できる。なお、人事部においては、介護休業の取得可能日数の増加等、着実に法令対応を行うとともに本学独自の改善も行うことができている。
	7 教育後援会・同窓会との連携推進	C	新型コロナウイルスの感染拡大防止対策のため、教育後援会においては、支部総会・懇親会、大学見学会等が中止になり、また、同窓会においては、同窓会と学長、副学長、学部長との懇談会が中止になったが、代替策として、保護者対象就職セミナーの動画配信や、支部総会資料のWEB掲載などで対応できている。引き続き、教育後援会、同窓会構成員のニーズに応えた活動の充実を期待する。

評価 S: 目標よりはるかに上回る、A: 目標をやや上回る、B: おおむね目標どおり、C: 目標をやや下回る、D: 目標をかなり下回る